

行動データから「隠れた状態」を推定し、 全体ネットワークを予測する

背景と動機

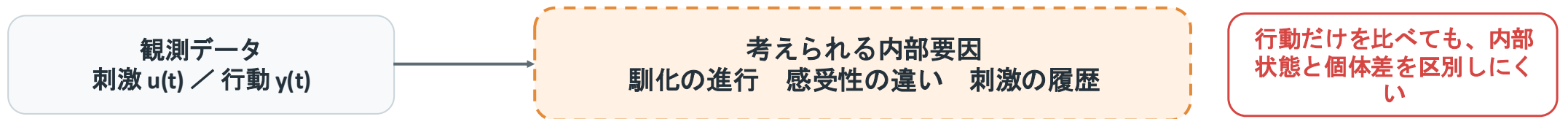
同じ刺激でも、反応は経験や個体差によって変化する

観測できるのは「刺激」と「行動」。その間にある記憶・適応・個体差は直接見えない。



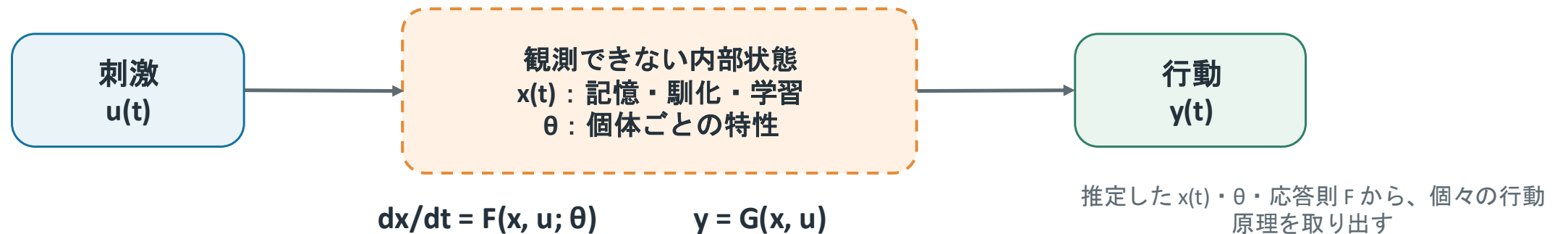
現状

同じ「反応の低下」でも、原因は一つとは限らない



設定と記号・ 研究紹介

刺激と行動の間に「隠れた内部状態」を置き、時系列データから推定する



展開

個々の行動原理を組み合わせ、ネットワークの形成と変化を予測する

